

平成 28 年度 末 学 校 評 価

愛南町立平城小学校

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満 (上段:中間期 下段:年度末)

項目	重点目標	評価指標及び目標値(期待される姿)	評価	考察(◇)及び改善方向(◆)	評価資料	アンケート結果				
						4	3	2	1	?
1 教育課程・学習指導	確かな学力の定着向上に努める。	① 授業時数が確保され、授業内容が計画通り実施できているか。 目標値 調査結果で、90%以上達成	A	◇ 授業時数は確保できているが、特に高学年は、内容をこなすのが精一杯で、音読までいかない教科があった。 ◆ 交換授業等、早めに連絡を取り合って時数確保するとともに、学期・学年を見通して計画的に実施したり、内容の軽重を考えながら授業内容の充実を図ったりする。 ◇ 実務的に入ってきた行事等に時間を取られ、時間割面に習習したが、専科教員と連絡を取り合いながら時数を確保することができた。	授業時数確保結果					
			A	◆ 見直しをもつて計画的に時数確保していくとともに、共有フォルダ等を利用して専科教員等との連絡を密にし、授業内容の充実を図りながら授業内容を把握したり、見直しをもたせたりして授業に取り組むことができた。振り返りも大切にできたが、なかなか時間が取れないことがあり、反省している。	経過時数確保結果					
			A	◇ 引き継ぎをいかに明確にしてわかる授業の実践に努めるとともに、個に応じた支援や保護者への啓発にも努めていく。 ◇ どの教科でも、おねえを明確にするとともに、学習の進め方を見直しをもたせさせて授業実践ができた。また、振り返りを行ったり、進捗確認を怠らないうちでもできた。	教員アンケート	44%	88%	0%	0%	0%
			A	◆ 今後ともての明確化や振り返り等の実践を行って分かる授業の実践に努めるとともに、個に応じた支援や保護者への啓発の時間を有効に活用することができた。	教員アンケート	33%	67%	0%	0%	0%
			A	◆ 今後とも今の取組を継続し、「読み取る力」の向上に努めたい。	児童アンケート	72%	92%	0%	0%	0%
			A	◆ 年層を通して、朝学習の再開や副読本を中心に読書に実践してきたことにより、児童の力が付いてきた。	児童アンケート	74%	29%	4%	2%	0%
		② おねえを明確にして、分かる授業の実践に努めているか。 目標値 教職員・児童・保護者の80%以上が肯定(4-3)	A	◇ 国語科・社会科・算数科・理科の4教科以外でも、いろいろな場面を取り入れることができた。 ◇ 学年や学年によって偏りがでないよう、研修の機会を設けて、学校全体で統一して取り組めるものがあるのではないかと思う。	教員アンケート	79%	25%	0%	0%	0%
			A	◇ 教職員の意識もより高まり、「書く読書」を積極的に取り入れてきたことにより、児童の書くことへの意欲がなくなってきただけでなく、書いたことと話し合いの内容も充実してきた。 ◆ 今後は、書き方や読書などを取り、内容の充実を図っていくとともに、結果的であった指導やワークシートの工夫等の情報交換をし、児童と教職員・保護者の結果に大きな差がある。また、正しい読書学習の習慣が身に付いている児童とそうでない児童の個人差が大きい。児童学習に取り組む内容や方法にも課題があると考えられる。	教員アンケート	82%	100%	0%	0%	0%
			B	◆ 家庭学習の内容や量等を確認し、再検討するとともに、学習の仕方についても指導を徹底する必要がある。また、家庭学習はあくまで家庭学習に対する意識や実践に個人差がある。また、児童だけでなく、保護者の意識にも個人差があり今後の課題である。	教員アンケート	56%	45%	4%	0%	0%
			B	◆ 家庭学習の習慣については、家庭における教育環境がいかに違うので、異なるところもあるのではないか。自主性が育てる習慣化され、宿題をして当たり前になってくるといいのだが、保護者の意見も聞きながら、働きかけ・意識付けをしてい	児童アンケート	50%	23%	2%	0%	0%
			B	◆ 家庭学習の習慣については、正しい読書の仕方を見直し、児童の読書習慣を育てたい。	児童アンケート	17%	39%	32%	0%	4%
			B	◆ 家庭学習に意識的に取り組めるよう、内容等を工夫するとともに、学習の仕方についても指導の徹底を図る。また、保護者への啓発も行ってみたい。	教員アンケート	10%	70%	20%	0%	0%
③ 15分×学年以上の家庭学習の習慣が身に付いているか。 目標値 教職員・児童・保護者の80%以上が肯定(4-3)	A	◇ 行書の見直し・指導等をも、時数確保に努めるとともに、時間を大切に授業内容の確実な実施を継続していく。 ◇ 研修通信や学年連絡等を利用して、学校の取組や家庭学習の方法、おねえ等を保護者に発信し、学校と家庭の連携を図る。 ◇ 朝学習の時間の取組が児童に定着してきているので、今後継続指導し、学力向上につなげる。 ◇ 正しい家庭学習の習慣が身に付いていない児童には、学習意欲の向上のための声掛けを行うとともに、個別に教育相談を行い、対応策を検討していく。 ◇ 限られた時間で習得を図れるよう、分かる授業の実践に努める。また、個別指導や補充指導の充実を図る。 ◇ 家庭学習にたいして、児童学習の内容や進め方について、家庭学習の仕方、児童での確認方法等の情報交換をする。 ◇ 家庭学習の取組については、「読み」児童学習」を含めるかどうかについて確認し、来年度から明記する。 ◇ 家庭・学校・保護者との連携をとり、正しい読書の仕方を見直し、児童の読書習慣を育てたい。 ◇ 家庭学習については、他校や他の地域の取組について学ぶ機会を設けたい。	教員アンケート	87%	28%	0%	0%	0%		
	A	◆ 家庭学習の習慣については、正しい読書の仕方を見直し、児童の読書習慣を育てたい。	児童アンケート	19%	60%	28%	0%	2%		
④ 自分の考えを書く活動を取り入れた授業を授業時数の半分以上実施したか。 目標値 教職員の80%以上が肯定(4-3)	A	◇ 教科書・社会科・算数科・理科の4教科以外でも、いろいろな場面を取り入れることができた。 ◇ 学年や学年によって偏りがでないよう、研修の機会を設けて、学校全体で統一して取り組めるものがあるのではないかと思う。	教員アンケート	79%	25%	0%	0%	0%		
	A	◇ 教職員の意識もより高まり、「書く読書」を積極的に取り入れてきたことにより、児童の書くことへの意欲がなくなってきただけでなく、書いたことと話し合いの内容も充実してきた。 ◆ 今後は、書き方や読書などを取り、内容の充実を図っていくとともに、結果的であった指導やワークシートの工夫等の情報交換をし、児童と教職員・保護者の結果に大きな差がある。また、正しい読書学習の習慣が身に付いている児童とそうでない児童の個人差が大きい。児童学習に取り組む内容や方法にも課題があると考えられる。	教員アンケート	82%	100%	0%	0%	0%		
⑤ 「15分×学年」以上の家庭学習の習慣が身に付いているか。 目標値 教職員・児童・保護者の80%以上が肯定(4-3)	A	◇ 行書の見直し・指導等をも、時数確保に努めるとともに、時間を大切に授業内容の確実な実施を継続していく。 ◇ 研修通信や学年連絡等を利用して、学校の取組や家庭学習の方法、おねえ等を保護者に発信し、学校と家庭の連携を図る。 ◇ 朝学習の時間の取組が児童に定着してきているので、今後継続指導し、学力向上につなげる。 ◇ 正しい家庭学習の習慣が身に付いていない児童には、学習意欲の向上のための声掛けを行うとともに、個別に教育相談を行い、対応策を検討していく。 ◇ 限られた時間で習得を図れるよう、分かる授業の実践に努める。また、個別指導や補充指導の充実を図る。 ◇ 家庭学習にたいして、児童学習の内容や進め方について、家庭学習の仕方、児童での確認方法等の情報交換をする。 ◇ 家庭学習の取組については、「読み」児童学習」を含めるかどうかについて確認し、来年度から明記する。 ◇ 家庭・学校・保護者との連携をとり、正しい読書の仕方を見直し、児童の読書習慣を育てたい。 ◇ 家庭学習については、他校や他の地域の取組について学ぶ機会を設けたい。	教員アンケート	56%	45%	4%	0%	0%		
	A	◆ 家庭学習の習慣については、正しい読書の仕方を見直し、児童の読書習慣を育てたい。	児童アンケート	17%	39%	32%	0%	4%		
⑥ 15分×学年以上の家庭学習の習慣が身に付いているか。 目標値 教職員・児童・保護者の80%以上が肯定(4-3)	A	◇ 行書の見直し・指導等をも、時数確保に努めるとともに、時間を大切に授業内容の確実な実施を継続していく。 ◇ 研修通信や学年連絡等を利用して、学校の取組や家庭学習の方法、おねえ等を保護者に発信し、学校と家庭の連携を図る。 ◇ 朝学習の時間の取組が児童に定着してきているので、今後継続指導し、学力向上につなげる。 ◇ 正しい家庭学習の習慣が身に付いていない児童には、学習意欲の向上のための声掛けを行うとともに、個別に教育相談を行い、対応策を検討していく。 ◇ 限られた時間で習得を図れるよう、分かる授業の実践に努める。また、個別指導や補充指導の充実を図る。 ◇ 家庭学習にたいして、児童学習の内容や進め方について、家庭学習の仕方、児童での確認方法等の情報交換をする。 ◇ 家庭学習の取組については、「読み」児童学習」を含めるかどうかについて確認し、来年度から明記する。 ◇ 家庭・学校・保護者との連携をとり、正しい読書の仕方を見直し、児童の読書習慣を育てたい。 ◇ 家庭学習については、他校や他の地域の取組について学ぶ機会を設けたい。	教員アンケート	56%	45%	4%	0%	0%		
	A	◆ 家庭学習の習慣については、正しい読書の仕方を見直し、児童の読書習慣を育てたい。	児童アンケート	17%	39%	32%	0%	4%		

1 教育課程・学習指導	心の教育の充実をめぐる	⑥ 体験活動等を生かした心に響く道徳教育の実践に努めているが、目標値 教職員・児童・保護者の80%以上が肯定(4・3)	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員の結果に4の判定がないのは反省しなければならない。謙虚に考えているのかもしれないが、自分の実践に自信がもてていないのは問題である。 ◆ 心に響くというのは難しいが、日々意識して実践に取り組みるとともに、地域の人材をさらに活用し、体験活動と授業(学び)の関連性を、学 	<table border="1"> <tr><td>教職員アンケート</td><td>0%</td><td>82%</td><td>16%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>児童アンケート</td><td>88%</td><td>26%</td><td>4%</td><td>2%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>保護者アンケート</td><td>10%</td><td>58%</td><td>8%</td><td>2%</td><td>21%</td></tr> </table>	教職員アンケート	0%	82%	16%	0%	0%	児童アンケート	88%	26%	4%	2%	0%	保護者アンケート	10%	58%	8%	2%	21%
			教職員アンケート	0%	82%	16%	0%	0%															
		児童アンケート	88%	26%	4%	2%	0%																
		保護者アンケート	10%	58%	8%	2%	21%																
		B	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 全体的にはやや評価がよくはなっているが、まだ、教職員の「4」がないのは反省である。体験活動を生かした道徳教育に関する研修の必要性を感じる。 ◆ 道徳に関する研修の充実を図るとともに、児童の身に付けさせたい道徳的価値を明確にして、日々の実践に努める。 	<table border="1"> <tr><td>教職員アンケート</td><td>0%</td><td>100%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>児童アンケート</td><td>84%</td><td>22%</td><td>6%</td><td>1%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>保護者アンケート</td><td>14%</td><td>80%</td><td>0%</td><td>3%</td><td>17%</td></tr> </table>	教職員アンケート	0%	100%	0%	0%	0%	児童アンケート	84%	22%	6%	1%	0%	保護者アンケート	14%	80%	0%	3%	17%	
		教職員アンケート	0%	100%	0%	0%	0%																
		児童アンケート	84%	22%	6%	1%	0%																
		保護者アンケート	14%	80%	0%	3%	17%																
		⑦ 児童一人一人を大切にした学級経営を行い、望ましい人間関係づくりに努めているが、目標値 教職員・児童・保護者の80%以上が肯定(4・3)	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師の速い理し方が子ども同士の間隙にもつながると思うので、子どもの気持ちを大切にしたい学級経営に努めた。また、問題の未然防止や、早期解決に努めようと考えてきた。 ◆ 122の判定にしっかり向き合い、日記や教育相談等、あらゆる場面で児童理解に努めるとともに、保護者との人間関係作りにも努める。 	<table border="1"> <tr><td>教職員アンケート</td><td>9%</td><td>91%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>児童アンケート</td><td>82%</td><td>14%</td><td>2%</td><td>2%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>保護者アンケート</td><td>20%</td><td>64%</td><td>4%</td><td>2%</td><td>10%</td></tr> </table>	教職員アンケート	9%	91%	0%	0%	0%	児童アンケート	82%	14%	2%	2%	0%	保護者アンケート	20%	64%	4%	2%	10%
		教職員アンケート	9%	91%	0%	0%	0%																
児童アンケート	82%	14%	2%	2%	0%																		
保護者アンケート	20%	64%	4%	2%	10%																		
A	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 一人一人が活躍できる場を設けたり、様々な場面を通して関わりを深め、望ましい人間関係を築けるよう努めた。 ◆ 日々の日記や教育相談等を利用して児童理解に努めるとともに、一人一人の良さを見つめ、児童の自己肯定感を高める場を意図的に設ける。 	<table border="1"> <tr><td>教職員アンケート</td><td>18%</td><td>82%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>児童アンケート</td><td>80%</td><td>11%</td><td>4%</td><td>1%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>保護者アンケート</td><td>18%</td><td>80%</td><td>10%</td><td>2%</td><td>11%</td></tr> </table>	教職員アンケート	18%	82%	0%	0%	0%	児童アンケート	80%	11%	4%	1%	0%	保護者アンケート	18%	80%	10%	2%	11%			
教職員アンケート	18%	82%	0%	0%	0%																		
児童アンケート	80%	11%	4%	1%	0%																		
保護者アンケート	18%	80%	10%	2%	11%																		
⑧ 人権・同和教育に重点をあてた学習を計画通り実施しているが、目標値 教職員の80%以上が肯定(4・3)	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年間指導計画に沿って計画的に実施することはできたが、その内容や実施方法についてはまだまだ充実させていく必要を感じる。 ◆ すべての教育活動の中で人権・同和教育の視点を意識しておくことはもちろん、さらに研修を深め、その取り組みの内容を充実させるよう努める。 	<table border="1"> <tr><td>教職員アンケート</td><td>14%</td><td>79%</td><td>7%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> </table>	教職員アンケート	14%	79%	7%	0%	0%														
教職員アンケート	14%	79%	7%	0%	0%																		
A	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 資料調べ、計画的に実施することができた。 ◆ 今後も、さらに充実した取組ができるように研修を深めていく。 	<table border="1"> <tr><td>教職員アンケート</td><td>0%</td><td>91%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> </table>	教職員アンケート	0%	91%	0%	0%	0%															
教職員アンケート	0%	91%	0%	0%	0%																		
⑨ 差別や偏見につながる問題の解決が日常的に図られているが、目標値 教職員・児童の80%以上が肯定(4・3)	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大きな問題はないが、時々、学級の中や地域での言葉遣いが気になることがややあった。特に高学年の言葉遣いが気になった。 ○ 日々児童の様子や変化に気づけるよう、アンテナを高くしておくとともに、教職員間での情報交換を密にし、早期発見・早期解決に努める。 	<table border="1"> <tr><td>教職員アンケート</td><td>22%</td><td>72%</td><td>6%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>児童アンケート</td><td>63%</td><td>29%</td><td>4%</td><td>3%</td><td>0%</td></tr> </table>	教職員アンケート	22%	72%	6%	0%	0%	児童アンケート	63%	29%	4%	3%	0%								
教職員アンケート	22%	72%	6%	0%	0%																		
児童アンケート	63%	29%	4%	3%	0%																		
A	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 前年に比べて大きな異変はなかった。気になることは、その都度指導してきた。 ◆ 教師自身の言葉にも気を付けるとともに、将来的に差別や偏見につながる問題にかかわる可能性があることも考慮し指導・支援していく。 	<table border="1"> <tr><td>教職員アンケート</td><td>13%</td><td>87%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>児童アンケート</td><td>63%</td><td>29%</td><td>6%</td><td>2%</td><td>0%</td></tr> </table>	教職員アンケート	13%	87%	0%	0%	0%	児童アンケート	63%	29%	6%	2%	0%									
教職員アンケート	13%	87%	0%	0%	0%																		
児童アンケート	63%	29%	6%	2%	0%																		
学校関係者評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳の教科化に向けて研修を深めるとともに、教師の生の経験を児童にしっかりと伝えたい。日頃の児童とのかかわりが道徳性を養うのに大きく左右している ○ 日頃から児童・保護者との信頼関係をしっかりと築いてほしい。 ○ ⑥の教職員の結果に4の判定がないが、先生方は日頃から一生懸命に取り組まれているのではないかと、もっと自信を持っていいのではないかとと思う。 ○ 保護者の所見の中に、「先生の言葉遣いが悪い」とあったが、本当だろうか。児童が悪いことをやる時は、あまり優しい言葉ばかりではいけないと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳の教科化に向けて、研修を深め、準備を怠りなく進めなければならない。 ○ 道徳の授業研究や学習指導要領についての研修を深めていく。 ○ 児童の実態をしっかりと把握し、朝に力を入れていくのはしっかりさせて取り組んでいく。 ○ 「先生の言葉遣いが悪い」という意見を意図的に受け止めるとともに、自分を意識しやすいチャンスとして捉えたい。 ○ 道徳の授業を教職員研修のものにはできないかもしれないが、少しでも児童の心に響く授業になるように努力していく。 ○ 児童の言葉遣いについては、発達段階によって差はあるが、時と場合に応じた言葉遣いができるようその都度指導していく。また、大人自身が気を付けていきたい。 ○ 情報をもとに指導を自分で行って、指導の充実を図るとともに、SNSのトラブル等について、保護者への啓発も充実させる。 ○ 人権・同和教育の研修会等にも参加し、教師自身も人権意識を高めていくよう努める。 																					

2	生徒指導	<p>① 進んであいきができる児童が育っているか。</p> <p>目標値 教職員・児童・保護者・地域住民80%以上が肯定(4・3)</p>	B	<p>○ 少しずつ良くなってはきたが、まだまだ個人差がある。また、登下校中や教師に対してはできるが、友達同士や地域ではまだまだできていないのが現状である。</p> <p>◆ 「お明る(保護者)」、「いいつも」どこでも だれにでも、ざ「先に」、つ「続けよう」を、全体指導・個別指導を通して徹底していく。また、大人数で遊ぶ場面でのあいきの徹底を図る。</p>	<p>教職員アンケート 11. 72% 17% 0% 0%</p> <p>児童アンケート 52% 43% 4% 1% 0%</p> <p>保護者アンケート 24. 56% 14% 1% 4%</p> <p>地域住民アンケート 33. 40% 20% 0% 7%</p>	
			B	<p>◆ 手本となる児童のあいきを全体に広げたい。あいき指導を継続するとともに、教師自ら手本になれるようなあいきをするよう指導。</p>	<p>教職員アンケート 0% 84% 8% 0% 0%</p> <p>児童アンケート 70% 24% 3% 8% 0%</p> <p>保護者アンケート 10% 80% 14% 3% 8%</p> <p>地域住民アンケート 47% 33% 13% 0% 7%</p>	
			B	<p>○ 日頃の情報交換やアンケート等により、問題の未然防止と早期発見・早期対応に努めた。昨年度よりやや評価がよくなっているが、保護者の肯定率がやや低いのが課題である。</p> <p>◆ 日々の児童の様子だけでなく、教育相談の時間確保し、保護者との会話を増やし、児童の実態把握に努めるとともに、</p>	<p>教職員アンケート 6% 84% 8% 0% 0%</p> <p>児童アンケート 27% 19% 3% 1% 0%</p> <p>保護者アンケート 8% 82% 7% 2% 31%</p>	
3	保健安全管理	<p>② いじめ・不登校の早期発見、早期対応に努めているか。</p> <p>目標値 教職員・児童・保護者の80%以上が肯定(4・3)</p>	B	<p>◆ 全体的にやや評価がよくなった。努めて画期的な早期発見と早期対応に努めてきた。</p>	<p>教職員アンケート 22% 78% 0% 0% 0%</p> <p>児童アンケート 81% 12% 8% 1% 0%</p> <p>保護者アンケート 11% 46% 7% 2% 33%</p>	
			B	<p>◆ 引き続き児童理解に努めるとともに、異なる児童については、全教職員で情報を共有し、共通理解を図って対応していく。</p>	<p>教職員アンケート 22% 78% 0% 0% 0%</p> <p>児童アンケート 81% 12% 8% 1% 0%</p> <p>保護者アンケート 11% 46% 7% 2% 33%</p>	
			B	<p>○ スクールソーシャルワーカーに、児童・保護者・教職員等にかかわっていただきありがたい。児童の18%が1・2の評定になっているのは、まだまだ児童の悩みに対応できていないのだから反省している。</p> <p>◆ 今後スクールソーシャルワーカーとの連携を深めるとともに、学校担任以外との教育相談を実施する等、積極的に児童の悩みに効果的に取り組む。</p> <p>○ スクールソーシャルワーカーの存在は大きい。保護者と情報・児童の面に入って、いろいろなアドバイスをしていただきありがたい。教育相談が定期的に行えるのがいいが、なかなか時間確保が難しいのが課題である。</p> <p>◆ 学校担任以外の者も積極的に児童とかわかり、早い教育相談を行ったりしながら、児童理解に努める。</p>	<p>教職員アンケート 11% 83% 6% 0% 0%</p> <p>児童アンケート 63% 19% 16% 8% 0%</p> <p>保護者アンケート 11% 58% 6% 2% 22%</p>	
3	保健安全管理	<p>③ スクールソーシャルワーカーを活用し、教育相談による児童理解に努めたりしながら、児童の悩みに積極的に対応しているか。</p> <p>目標値 教職員・児童・保護者の80%以上が肯定(4・3)</p>	B	<p>○ 子どもたちのあいきはよくできていると思う。児童をもちょうどよくある。</p> <p>○ なかなか難しいとは思いますが、教育相談の時間をしっかりと確保したり、児童と向き合ったりするチャンスを作っている。「意見書」の設置等もよいのではないかと。</p> <p>○ いじめの防止には、エスカレーターする際に、早期発見・早期対応、について話し、そのために、日頃の観察もしっかりと、子どもたちの変化に気付いてほしい。</p> <p>○ 問題に対しては、学級担任だけでなく、組織的に対応してほしい。</p> <p>○ 何かあった時には、思い込みで指導せず、事実をしっかりと把握し、子どもたちの本音の姿をしっかりと見抜いてほしい。</p> <p>○ ①定の「う」の保護者は、子どもにも興味がないのではないかと、学校任せになってしまうのではないかと感じている。いじめの防止に効果的に行う必要がある。</p>	<p>学校の対応</p> <p>○ あいきについては、評価を子どもたちへ返すとともに、あいきつうの意義を伝え、継続して指導していくとともに、教職員自らも元気あいきをつ心掛ける。</p> <p>○ 声を出さずの指導していく。</p> <p>○ 教育相談を継続的に行う。</p> <p>○ 定期的な学年部会などとして、さいごなことも児童の様子を情報交換し、全教職員で全児童を見守る意識をもつ。</p> <p>○ 教職員が個別に児童と話すことにより、子ども同士も人間関係を築けるようにする。</p> <p>○ ①定の「う」のような保護者もしっかりとわかりをもち、連携を密にしていよう努める。</p> <p>○ SNSの利用についての正しい使い方等、保護者へも普及していく。</p>	<p>教職員アンケート 0% 76% 24% 0% 0%</p> <p>児童アンケート 70% 22% 6% 2% 0%</p> <p>保護者アンケート 22% 51% 23% 3% 1%</p>
			B	<p>◆ 児童と保護者・教職員の結果にずれがある。昨年度の質問から「片付け」を削除した結果、ややよくなっているので「片付け」ができていなかったと思われる。まだまだ個人差(家庭による差)がある。</p>	<p>教職員アンケート 0% 71% 28% 0% 0%</p> <p>児童アンケート 81% 30% 7% 2% 0%</p> <p>保護者アンケート 22% 46% 28% 8% 0%</p>	
			B	<p>◆ 基本的な生活習慣を身に付けることの大切さは、親子共に学習し続けることが大切である。家庭によって差はあるが、習俗の仕方を工夫しながら声掛けを続ける。</p>	<p>教職員アンケート 18% 76% 6% 0% 0%</p> <p>児童アンケート 85% 19% 6% 0% 0%</p> <p>保護者アンケート 32% 61% 6% 1% 2%</p>	
3	保健安全管理	<p>① 児童に「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣が身に付いているか。</p> <p>目標値 教職員・児童・保護者の80%以上が肯定(4・3)</p>	A	<p>○ 児童と保護者・教職員の評価にずれはあるが、昨年度に比べて評価がよくなっている。給食の残量は少ないと思う。</p> <p>◆ 食に関する指導の充実を図るとともに、給食委員会の活動や昼の放送等の充実を図っていく。また、保護者との連携を密にし、足並みをそろえて取り組んでいく。運動に関しては、体育科の授業を中心に工夫して取り組んでいく。</p>	<p>教職員アンケート 0% 88% 12% 0% 0%</p> <p>児童アンケート 87% 19% 8% 13% 0%</p> <p>保護者アンケート 27% 80% 9% 2% 1%</p>	
			A	<p>○ 「はしの日」や「弁当の日」を徹底して取り組んだことと、食に関する家庭学習ができた。体育の授業を中心に、意図的に体力を高める運動を取り入れてきた。</p>	<p>教職員アンケート 0% 88% 12% 0% 0%</p> <p>児童アンケート 87% 19% 8% 13% 0%</p> <p>保護者アンケート 27% 80% 9% 2% 1%</p>	
			A	<p>○ 「はしの日」や「弁当の日」の取組を継続するとともに、食に関する指導の方法を工夫しながら継続して取り組んでいる。</p>	<p>○ 家庭の事情を配慮しながら、正しい習慣を身に付けるため、具体的な立止で実施する。また、アンケート内容について継続していく。</p> <p>○ 日常生活に支障が出ている児童に対しては、保護者も含め指導を継続していく。</p> <p>○ 積極的な児童と声掛けしていく。</p> <p>○ 正しい鉛筆の持ち方と合わせて、正しい筆の持ち方の指導を継続していく。</p> <p>○ 「はしの日」や「弁当の日」は、食に関する意図の高揚に効果的であったこと、今後も内容を充実させながら継続していく。</p> <p>○ 中学校との連携を図る。</p> <p>○ モニタープログラムの効果はあるが、学力向上とのバランスを考え、閉学習を今後も充実させる。体力向上については、引き続き、体育の授業や課外体育等での、意図的に体力を高める運動を取り入れて体力向上を図る。</p>	<p>学校の対応</p>

4	特別支援教育	特別支援教育の充実に努める	<p>① 特別支援教育に対する教職員の共通理解が図られ、校内の協力体制が機能しているか。</p> <p>目標値 教職員の80%以上が肯定(4・3)</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学年部会等を通して、共通理解を図るよう努めたが、学校全体で考えるとまだ不十分であると思う。 ◆ 特別支援学級や通級指導教室についての正しい理解を深めるため、さらに研修を精進で共通理解を図り、協力体制を充実させていく。また、合理的配慮について、保護者や子どもたちにも理解を深めたい必要がある。 <p>◆ 学年部会や通級の活動の中で共通理解を深めるよう努めたが、学校全体での共通理解がまだ不十分である。</p>	教職員アンケート	0%	89%	11%	0%	0%
			<p>② 特別な教育的支援を必要とする児童に、効果的な指導を行っているか。</p> <p>目標値 教職員の80%以上が肯定(4・3)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 校内研修会や教育支援委員会等で情報交換を行うとともに、全員で共通理解を固め協力体制を充実させていく。また、教職員が「研修を深め、特別な教育的支援の専門的な知識を身に付けるよう努める。 <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 通級指導教室(きらりルーム)の設置により、特別な教育的支援を要する児童への効果的な指導ができるようになった。効果が表れている児童はいるが、その差が顕著として表れていると思われる。 ◆ 個別の指導計画を活用し、一人一人に合った効果的な指導の方法を工夫するとともに、教職員間の情報交換を密にし、共通理解を固める。 <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特別な教育的支援が必要な児童にかかわっている教職員は、個に応じた指導や補充等、効果的な指導をしようとしてきた。通常の授業における特別な教育的支援を必要とする児童への支援がなかなか難しい。 ◆ 教職員間で共通理解・連携を固め、特別な教育的支援が必要な児童に合った支援方法を磨きながら、効果的に行っていくよう努める 	教職員アンケート	0%	74%	26%	0%	0%
			<p>○ 日頃からとてもよく対応してもらっているが、進捗した側のことを考えると、あまり手をかけすぎず、自立させることも大切である。それを見逃して指導する方が児童のためになるのではないかと思う。</p> <p>○ 通級教室に通わなかった保護者にとって、自校に通級指導教室(きらりルーム)が設立されたことはとてもありがたい。迷途の糸がなかったため、入籍を前向きに考えられるようになった。また、今まで他校の通級指導教室に通っていた保護者の負担も減った。保護者の理解を得て有効に活用してほしい。</p> <p>○ 配慮を要する児童が増えているのに、専門的なスタッフが不足している。それが、全体指導にも影響してくるので、支援員等の人材が増えるといいのだが、通常学級のゆとりを必要とする児童はたくさんいる。支援員の人材を確保したい。</p>	<p>学校の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人が大切存在であること、どの子も伸ばしていく姿勢と力をもちたいことを常に意識し、指導していく。 ○ 特別な教育的支援を必要とする児童に効果的な指導になるよう、交流学習を計画的に実施していく。 ○ 特別な支援を必要とする児童へのからかい等、きつい言葉も見過ごさないようにする。 ○ 通常学級の中にも配慮を要する児童について、全教職員で共通理解を固め、その対応について検討していく。 ○ 特別支援教育の取組等について、連携等を活用して積極的に情報発信をする。 ○ 通常学級の中にも配慮を要する児童は多くいて、すべての児童の学習効果を上げるためには、支援員等の配置は必要である。 ○ 特別支援教育の研修を全教職員がしっかりと深めていこうとする。 ○ 特別な支援を必要とする児童の進捗について、どんな準備や支援が必要か全教職員で共通理解を固めておく。 ○ 児童本人にとって、よりよい入籍・通級指導を促す。 	教職員アンケート	0%	82%	12%	0%	0%
			<p>○ 校内研修は、時間確保が難しいが計画的に実施され、教育諸問題への対応や研修推進等、バランスを考慮して取り組むことができたが、焦点を絞って研究深めることができなかった。</p> <p>◆ 授業支援を通して、授業改善及び指導力向上に努めた。また、特に2学期は、焦点を絞り、事前研究会に向けて具体的に取り組んでいく。</p> <p>◆ 研修支援を中心にして、事前研究会に向けて焦点を絞った授業研究ができた。また、事前研修や外開講、園工の異校研修等、積極的研修ができた。</p> <p>◆ 現職員の課題に合った研修内容になるよう、計画的に取り組むたい。また、事前研修の反省を踏まえ、「何を指し、何をしているのか」各自が問題意識をもって積極的に参加することができた。互いの教育実践や教育諸問題への対応、指導方法などを学びあうことができた。</p> <p>◆ 今後も、互いの学びを全体に広げ、共に質向上を目指して努力していきたい。</p> <p>◆ 校外への研修にも積極的に参加する等、研修に対する意識が高くなった。校内の先生方や、他校の様子を見ることが、自分の課題や児童の課題等を明確にすることができた。</p> <p>◆ 校外での研修を促せる機会を確保し、互いの質向上に努める。研修したことが自分の力となって、児童に還元できるよう努める。</p> <p>○ 忙しい中、それぞれで努力はしているが、保護者や地域住民の「1?や2?や3?」が多いことは、情報発信不足や保護者・地域とかがまだまだ少ないのではないかとと思われる。</p> <p>◆ 積極的に保護者や地域とかわかるとともに、丁寧な対応に努める。また、情報発信にも努める。</p> <p>◆ 地域住民の「?」「?」が少なくないことはよいことである。努力しているつもりではいるが、日々のことに追いつかず、まだ不十分である。</p> <p>◆ 積極的に保護者や地域の方々とかかわるよう努める。常に目標に掲げ付けたときに、態度で真摯な態度・対応を忘れないように</p>	<p>教職員アンケート</p> <p>33%</p>						
5	研修	教職員の資質と指導力の向上に努める	<p>① 校内研修は現職教育計画に沿って効果的に実施されているか。</p> <p>目標値 教職員の80%以上が肯定(4・3)</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 授業支援を通して、授業改善及び指導力向上に努めた。また、特に2学期は、焦点を絞り、事前研究会に向けて具体的に取り組んでいく。 ◆ 研修支援を中心にして、事前研究会に向けて焦点を絞った授業研究ができた。また、事前研修や外開講、園工の異校研修等、積極的研修ができた。 	教職員アンケート	40%	88%	0%	0%	0%
			<p>② 校内・校外研修に主体的に参加し、自己研修に努めているか。</p> <p>目標値 教職員の80%以上が肯定(4・3)</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 校外への研修にも積極的に参加する等、研修に対する意識が高くなった。校内の先生方や、他校の様子を見ることが、自分の課題や児童の課題等を明確にすることができた。 ◆ 校外での研修を促せる機会を確保し、互いの質向上に努める。研修したことが自分の力となって、児童に還元できるよう努める。 	教職員アンケート	30%	80%	0%	0%	0%
			<p>③ 依頼される教師として、視野の拡大や質向上に努めているか。</p> <p>目標値 教職員・保護者・地域住民の80%以上が肯定(4・3)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 忙しい中、それぞれで努力はしているが、保護者や地域住民の「1?や2?や3?」が多いことは、情報発信不足や保護者・地域とかがまだまだ少ないのではないかとと思われる。 ◆ 積極的に保護者や地域とかわかるとともに、丁寧な対応に努める。また、情報発信にも努める。 ◆ 地域住民の「?」「?」が少なくないことはよいことである。努力しているつもりではいるが、日々のことに追いつかず、まだ不十分である。 ◆ 積極的に保護者や地域の方々とかかわるよう努める。常に目標に掲げ付けたときに、態度で真摯な態度・対応を忘れないように 	<p>教職員アンケート</p> <p>17%</p>					
			<p>○ 地域の方々を知っていただくことも大切である。自分の地域行事に積極的に参加することはもちろん、平城小学校区内の地域行事にも積極的に参加してほしい。</p> <p>○ 「?」が多いのは仕方ない。</p> <p>○ 研修の機会をしっかりと考え、積極的に頑張りたい。</p>	<p>保護者アンケート</p> <p>13%</p>						
6	学校関係者評議員の充実	学校の対応	<p>○ 児童との対話を重視しているが、中心になる保護者層が限られている。全教職員が同じ歩調で進める。</p> <p>○ 各種連絡、ホームページ等での情報発信に努めるとともに、地域の行事へ積極的に参加する。</p> <p>○ 今後も校内・校外研修に積極的に参加し、研修を深める。</p> <p>○ 児童の学力向上に、より効果的な指導法の確立を目指す。</p>	<p>教職員アンケート</p> <p>19%</p>						
			<p>○ 児童との対話を重視しているが、中心になる保護者層が限られている。全教職員が同じ歩調で進める。</p> <p>○ 各種連絡、ホームページ等での情報発信に努めるとともに、地域の行事へ積極的に参加する。</p> <p>○ 今後も校内・校外研修に積極的に参加し、研修を深める。</p> <p>○ 児童の学力向上に、より効果的な指導法の確立を目指す。</p>	<p>保護者アンケート</p> <p>13%</p>						
			<p>○ 児童との対話を重視しているが、中心になる保護者層が限られている。全教職員が同じ歩調で進める。</p> <p>○ 各種連絡、ホームページ等での情報発信に努めるとともに、地域の行事へ積極的に参加する。</p> <p>○ 今後も校内・校外研修に積極的に参加し、研修を深める。</p> <p>○ 児童の学力向上に、より効果的な指導法の確立を目指す。</p>	<p>地域住民アンケート</p> <p>13%</p>						
			<p>○ 児童との対話を重視しているが、中心になる保護者層が限られている。全教職員が同じ歩調で進める。</p> <p>○ 各種連絡、ホームページ等での情報発信に努めるとともに、地域の行事へ積極的に参加する。</p> <p>○ 今後も校内・校外研修に積極的に参加し、研修を深める。</p> <p>○ 児童の学力向上に、より効果的な指導法の確立を目指す。</p>	<p>教職員アンケート</p> <p>11%</p>						

6	保護者・地域住民等との連携	保護者・地域住民との連携に努める。	<p>① 保護者・地域住民の学校への願いを把握し、適切に対応しよう努めている。</p> <p>目標値 教職員・保護者・地域住民の80%以上が肯定(4・3)</p>	<p>B</p> <p>○ 昨年度に比べ、保護者の評価はやや高くなっているが、まだまだ「？」が多い。積極的なかわりが不足しているのではないかと、思う。</p> <p>◆ 保護者や地域と積極的にかかわり、その願いをしっかりとみ取るとともに、組織として、いねみに対応していく。</p> <p>○ 保護者や地域住民の「？」がまだまだ多い。積極的なかわりが必要であると感じ、また、保護者への対応が十分にできていないか、不安に感じることがある。</p> <p>◆ 保護者や地域の方々との積極的にかかわり、その願いをしっかりと聞きとれた。また、何が子どもたちにとって大切なことなのかをしっかりと、保護者や地域の方々との積極的にかかわり、その願いをしっかりと聞きとれた。また、何が子どもたちにとって大切なことなのかをしっかりと聞きとれた。</p>	<table border="1"> <tr><td>教職員アンケート</td><td>24%</td><td>71%</td><td>6%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>保護者アンケート</td><td>11%</td><td>83%</td><td>6%</td><td>1%</td><td>1%</td></tr> <tr><td>地域住民アンケート</td><td>0%</td><td>60%</td><td>20%</td><td>0%</td><td>20%</td></tr> </table>	教職員アンケート	24%	71%	6%	0%	0%	保護者アンケート	11%	83%	6%	1%	1%	地域住民アンケート	0%	60%	20%	0%	20%
			教職員アンケート	24%	71%	6%	0%	0%															
			保護者アンケート	11%	83%	6%	1%	1%															
			地域住民アンケート	0%	60%	20%	0%	20%															
<p>② 保護者と教職員が協同したPTA活動が行われている。</p> <p>目標値 教職員・保護者の80%以上が肯定(4・3)</p>	<p>A</p> <p>○ PTA活動では、役員さんなども協力的であり、保護者の「？」が多いということは、まだまだ保護者の中には、積極的なPTA活動への参加が不十分な方々がいるのではないかと、思う。</p> <p>◆ PTA活動への参加が一部の保護者だけにならないように、情報提供に努めるとともに、望ましい人間関係を築くよう努める。</p> <p>○ 前年度同様、とても協力的な保護者が多くあり、まだ「？」が多いのは課題である。</p> <p>◆ 今後情報提供に努めるとともに、保護者との望ましい人間関係を築いていくよう努める。</p>	<table border="1"> <tr><td>教職員アンケート</td><td>24%</td><td>72%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>保護者アンケート</td><td>12%</td><td>89%</td><td>8%</td><td>1%</td><td>1%</td></tr> <tr><td>地域住民アンケート</td><td>20%</td><td>47%</td><td>13%</td><td>0%</td><td>20%</td></tr> </table>	教職員アンケート	24%	72%	0%	0%	0%	保護者アンケート	12%	89%	8%	1%	1%	地域住民アンケート	20%	47%	13%	0%	20%			
教職員アンケート	24%	72%	0%	0%	0%																		
保護者アンケート	12%	89%	8%	1%	1%																		
地域住民アンケート	20%	47%	13%	0%	20%																		
<p>③ 地域の人材や教育資源を活用するなど地域の教育力を取り入れた教育活動を推進している。</p> <p>目標値 教職員・保護者・地域住民の80%以上が肯定(4・3)</p>	<p>B</p> <p>○ 倉下校の安全指導や授業等、いろいろな場面で協力していただき、ありがたい。総合的な学習の時間や生活科を中心に、保護者や地域の方々、関係機関等に協力していただき、学習効果を上げることができた。</p> <p>◆ 人材・ノウハウの交流を行い、協力していただける方を発掘しながら、今後も地域の教育力を生かした教育活動を実現していきたい。</p> <p>○ 学年間で情報交換を蓄にし、いろいろな地域人材の情報を共有して活用することができた。</p> <p>◆ 計画的に活用できるように、年間指導計画等に赤字するなどして次年度に引き継ぎたい。</p>	<table border="1"> <tr><td>教職員アンケート</td><td>18%</td><td>81%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>保護者アンケート</td><td>13%</td><td>64%</td><td>6%</td><td>0%</td><td>15%</td></tr> <tr><td>地域住民アンケート</td><td>12%</td><td>60%</td><td>20%</td><td>0%</td><td>7%</td></tr> </table>	教職員アンケート	18%	81%	0%	0%	0%	保護者アンケート	13%	64%	6%	0%	15%	地域住民アンケート	12%	60%	20%	0%	7%			
教職員アンケート	18%	81%	0%	0%	0%																		
保護者アンケート	13%	64%	6%	0%	15%																		
地域住民アンケート	12%	60%	20%	0%	7%																		
<p>④ 学校便りやホームページ等で学校の取組が積極的に発信されている。</p> <p>目標値 教職員・保護者・地域住民の80%以上が肯定(4・3)</p>	<p>A</p> <p>○ 学級担任を中心に、積極的にホームページを更新したり、読みやすい学校便りに工夫改善したりする等、昨年度の反省を生かした改善の効果が表れてきた。</p> <p>◆ 引き続き、児童の様子や学校の取組について、積極的に情報発信するよう努める。</p> <p>○ 前年度同様、学校便り・学年便り・ホームページ等で積極的に学校の取組を掲載した。特に、修学旅行中の児童の様子をリアルタイムにホームページにアップして発信したのは好評であった。</p> <p>◆ 真面目にならない態度で、引き続き積極的に発信していくよう努める。</p>	<table border="1"> <tr><td>教職員アンケート</td><td>47%</td><td>47%</td><td>6%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>保護者アンケート</td><td>30%</td><td>60%</td><td>2%</td><td>2%</td><td>6%</td></tr> <tr><td>地域住民アンケート</td><td>40%</td><td>47%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>13%</td></tr> </table>	教職員アンケート	47%	47%	6%	0%	0%	保護者アンケート	30%	60%	2%	2%	6%	地域住民アンケート	40%	47%	0%	0%	13%			
教職員アンケート	47%	47%	6%	0%	0%																		
保護者アンケート	30%	60%	2%	2%	6%																		
地域住民アンケート	40%	47%	0%	0%	13%																		

学校関係者評価委員の所見

○ 地域の中には、いろいろな知識や技術をもっている方がたくさんいるので、積極的に活用してほしい。まだまだ活用している人がいるのではないかと、公民館に問い合わせ等、お話を進めたい。

○ 学年・階層の方々には感謝の気持ちや伝える機会を設けてほしい。

○ 学校便りなどもはやすかつた。かどうきになったのがよい、外国から来られたら、保護者や低学年の児童にも見せるのもいいかもしれない。

○ 何かの機会に書いてもらう等、いろいろな機会を通して、保護者の声や意見が聞けるようにしてはどうだろうか。

○ 顔の見える対話を大切にしたい。

○ 学校や先生方とのかわりをもっと深めるだけでなく、子どもたちのためにもなる

学校の対応

○ 懇話日や行事にアンケートをもって、参加者の意見を聞く。また、学年通信に保護者の感想欄等を作り、双方の通信便りに努める。

○ 学年別の方針を話し、地域の多様な方々に伝えていかなければならないことと意見を伺い、関係者も共に、感謝の気持ちをあきらめずと表示できるようにする。

○ 学年別の方針の存在を当り前に思わないよう、感謝の気持ちを伝える機会を設ける。

○ 学年別の方針に対して、毎日「おはようございます。」「お帰ります。」「ありがとうございます。」「行ってきます。」「等」の言葉が自然に出るよう、班長を中心に指導していく。

○ 「？」の場、どのようにしては種別が分かるかとお考え、具体的に書いていただく工夫をする。

教職員アンケート	87%	49%	0%	0%	0%
保護者アンケート	26%	99%	6%	1%	6%
地域住民アンケート	83%	38%	0%	0%	18%